

看護部

1. スタッフ（2023年4月1日現在）

看護職員 829名（臨時職員4名、パート職員16名、嘱託3名含む）

看護補助員 ヘルパー21名
アシスタント20名

派遣看護師 12月より述べ298名
公認心理師 2名

2. 看護部理念

「このセンターに来て良かった」と実感してもらえる看護を実践します。

3. 基本方針

- 1) 患者の皆様一人ひとりを尊重し、安全で質の高い看護を実践します。
- 2) 主体性を持って医療チームにおける役割を果たします。
- 3) 自己啓発に努め、看護の質の向上を目指します。

4. 看護部目標

【中期目標（2020年度～2024年度）】

現任教育を充実させ、看護職員の実践力の向上と自立を図り、患者のニーズを充足する。

【2023年度目標】

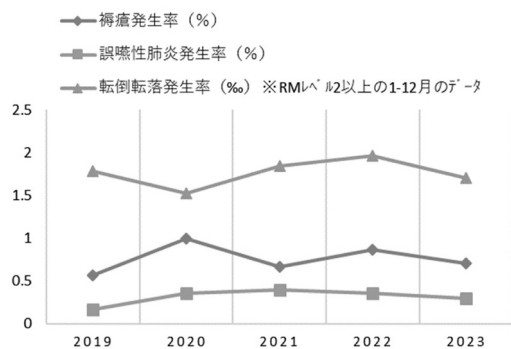
看護職員のワークモチベーションを高め、看護の質向上を図る。

5. 看護部目標評価

看護職員のワークモチベーション向上を目的に、全部署がワークモチベーション及び患者のニーズを充足するための自分達

（看護職）が果たす役割を明文化し共通認識した。そのうえで、様々な看護を考える機会を増やしたことは、実践している看護への有意味感を醸成する機会になった。また、全部署が根拠のある急性期看護の実践や診療補助業務の意味を理解し確実な実施に取り組んだことで、誤嚥性肺炎・褥瘡・転倒転落発生率が低下し、各部署の達成指標の達成も多数見られた。これらに加えて「ワークモチベーションが高まった」と評価した部署は8部署で低下した部署はなかったことから、全体としてはワークモチベーションが高まり、看護の質向上を図ることができたと評価する。ワークモチベーションや職員満足度が高まった部署では、実践した看護の振り返りおよび実践力や看護の質向上を実感する機会の増加、その指標としての「看護師が果たす役割」の活用が要因として挙げられた。今後も自分たちの役割認識を基盤として、より良い看護を考え、実践力や自己効力感向上につながる機会を増やすことでワークモチベーションを高め、前向きに看護を実践（仕事が）できる看護職員を育成し、質の高い看護を提供していくことが重要と考える。

6. ナーシングインディケーター



自治さいたま看護管理指標（JSNMI：Jichi Saitama Nursing Management Index）より

7. 会議・委員会活動

看護部の組織・運営に関する意思決定と目標達成に向けた活動を行うため、会議・委員会を設置している。2023年度は電子カルテ更新に係る準備のため記録委員会に全部署参加（電子カルテ更新特別委員会は終了）とした。

1) 会議

- ・看護部執行部会議
- ・看護師長ブロック会
- ・看護師長会
- ・キャリア支援会議
- ・委員長会議

2) 委員会

- ・記録委員会
- ・安全管理委員会
- ・クリニカルラダー委員会
- ・看護研究委員会
- ・特別委員会
- 看護の質向上・業務改善

8. リソースナース活動

1) 認定看護師（12分野）

- ・各分野に関連するチーム活動、施設基

準に関連する活動を行った。

2) 専門看護師（1分野）

- ・高度治療部（HCU）増床におけるマニュアル整備、教育計画立案と教育指導の実践
- ・術後疼痛管理チーム確立に向けた活動

3) 特定行為看護師

特定行為看護師は24名（3名増）となった。特定行為実施件数は漸増傾向にあり、組織横断的活動としてRST、術後疼痛管理チームが活動した。

4) 診療看護師

診療看護師活動統括部に出向している診療看護師3名は配属診療科で医師業務の一部を担い適時適切な診療提供に努め、医師を中心とした業務負担軽減にも貢献した。

5) 公認心理師

公認心理師2名が患者とその家族の治療に伴う心理反応や精神症状のアセスメントとケアを行った。精神疾患の既往がある妊産婦に対しては子の養育についても意思決定支援、心理支援を行った。

9. 主な事業

1) 総務

- ・2023年10月のHCU20床（10床増床）運営に応じて人員や業務等を調整し、備品・設備等を整備した。
- ・人員を確保するため臨時職員を採用し派遣看護師を起用した。

2) 業務

- ・業務効率化を図るために各部署や委員会にて取り組みを行った。入院生活説明動画の作成や電子カルテ更新を視野

に入れた記録の効率化を行った。

- ・2022年度導入したインターコミュニケーションシステム（インカム）を用いた看護師間のコミュニケーションの効率化については、日本看護協会「看護業務の効率化先進事例アワード2023【AI・ICT等技術の活用部門】特別賞」を受賞した。

3) 人材確保

- ・今年度は対面のための病院見学説明会を9回実施し261名参加、インターンシップは85回実施し735名参加した。
- ・採用試験応募者は337名であった。

4) 教育

- ・各研修において Kirkpatrick-Model による研修評価を導入し妥当性を検討した。
- ・研修評価のために一般病棟10部署を対象にキャリア支援部門から各部署2日間のリリーフを実施した。
- ・看護学生実習をコロナ禍前の1日実習に戻した。また、新規に1校受け入れを開始した。

5) 研究・学会等の活動

- ・看護研究・成果発表会を開催した。
- ・院外での活動に関しては表1を参照。

6) その他

- ・キャリア開発チアグループ活動においては、全専門外来でチアナースを導入し、小児・産科外来で一元化（病棟看護師・助産師のみによる外来運営）を開始した。2024年3月現在、2部署以上で業務ができる看護職員の割合はHCU増床に関連した異動が多かった影響もあるが36%と16%増加した。

表1 学会発表・執筆 ※出向者を含む

発表者	テーマ	学会名
加藤恵美	形成外科診療における診療看護師（ナースプラクティショナー：NP）の役割と効果	第66回日本形成外科学会総会・学術総会
浅井由佳	血管造影室と病棟看護師の連携強化を図る取り組み～心臓カテーテル検査を受ける患者の看護の充実を目指して～	第61回日本心血管インターベシオン治療学会関東甲信越地方会
鈴木敦子	With COVID-19の時代へ～当センターのカテーテル室における感染対策を振り返る～	
水上由美子	パネルディスカッション：次世代を担うエースは君だ	第11回日本感染管理ネットワーク学術集会
阿久津充生	教育課程修了後の活動と先任者とのかわりについて	
水上由美子	シンポジウム：血管カテーテル関連感染 攻略のカギCLABSI感染対策におけるPPE どう使う？	第38回日本環境感染学会総会・学術集会
佐手衣美	脳卒中発症による高次脳機能障害を有する患者の身体拘束解除に向けた取り組み	第24回NPO法人日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会
小林祐佳里	手術室で局所麻酔下の脳血管撮影を受ける患者が抱く不快感の実態調査	
加藤恵美	泌尿器科診療科における診療看護師（NP）の役割と効果	第9回日本NP学会学術集会
鈴木香織	人工呼吸器管理中の鎮静に対するスタッフの意識調査	第32回日本新生児看護学会学術集会
関根綾香	父親と共に行うオンライン面会が母親の気持ちに及ぼす効果の検討	
亀森康子	何をしたら医師からのインシデントレポートが増えますか	
大庭明子	医療安全文化調査の結果と考察	第18回医療の質安全学会
	パネルディスカッション：「医療安全文化調査の活用」「インシデントをどのようにフィードバックしていますか？～エラーに関するフィードバックとコミュニケーションへのアプローチ～」	
	「6Rの確認不足」によるインシデントの要因分析～CLIPのカスタマイズにより具体的な安全対策に結びつける～	
土師麻奈美		
末武友紀子	看護学分野における尺度開発論文の報告の傾向～COSMIN Risk of Biasチェックリストを用いて～	第43回日本看護科学学会
大久保ゆかり	ストーマ閉鎖を強く希望した患者への支援	第47回埼玉ストーマ・排泄リハビリテーション研究会
大島美津子	当院のスキンケア・ストーマケア院内認定看護師制度の導入と課題	
森山海美	化学療法を継続するために悪心コントロールを患者主体で行えるように支援した一例	第38回日本がん看護学会学術集会
時任美穂	機械学習によりICU患者予後予測モデルを多職種で活用する取り組み	第51回日本集中治療医学会総会
	造血幹細胞移植後の閉塞性細気管支炎患者に対して低用量オピオイドが誘発したPHクライシスの一例	
執筆者	表題	書籍・雑誌名
大庭明子	多職種とのチーム 組織としての取り組み	転倒・転落防止パーフェクトガイド
水上由美子	マニュアルに加えたい！図表で分かるインフルエンザ対策	INFECTION CONTROL Vol.32 No.11
時任美穂	特定看護師および診療看護師によるタスクシフトの現状と医師の勤務時間に及ぼす効果	病院Vol.82 No.12
水上由美子	カテーテル挿入・交換・抜去	感染対策ICTジャーナル Vol.19 No.2
中川温美	感染拡大時のクリティカルケア認定看護師の取り組み	看護Vol.76 No.1
大庭明子	インシデント報告を活用した医療安全管理活動	医学界新聞
大庭明子	インシデントをどのようにフィードバックしていますか？～エラーに関するフィードバックとコミュニケーションへのアプローチ～	医療安全文化調査活用支援事例Vol.18